



### 我内なる世界・宮古島の深層

上井幸子写真集『太古の系譜』にふれて

安里英子



神々の誕生、△のはま  
 り、を語りあげた宮古の「△  
 ヤシ(ウチカク)」の祭り  
 でのところで、復帰直後の古  
 は今、休戦期に入っている。  
 そんな折、静けさを破るか  
 てしまつてしまった。まき  
 のように、刷り上がったほか  
 に、奇跡の写真集と書える「太

り、写真集が、私の元に向け  
 られた。ペーシをめぐると身  
 震いするよすがの記憶がよ  
 みかえつてきた。同時に以前  
 玉城百寿海津近くにある、も  
 ろさわちよつ氏の主宰する  
 「歴史を拓くはじめの家」の  
 なあ」(1994年設立)の  
 壁一面の写真と重なり合っ

た。写真集「太古の系譜」は  
 上井幸子が復帰直後に宮古  
 島豊原、狩俣、大神、佐良浜  
 の祭祀や島の暮らしを撮影し  
 たものである。タイトルは女  
 性史家であるもつちよつこ  
 による。膨大なフィルムが発  
 見されたのは、上井の亡後  
 で、住まいが処分される寸前  
 のこと。知るべき姿は、駆け  
 付けた、かつて上井と祭祀の  
 場に居合わせたことのある  
 もろさわちよつによつてであ  
 る。もろさわの依頼を受けて

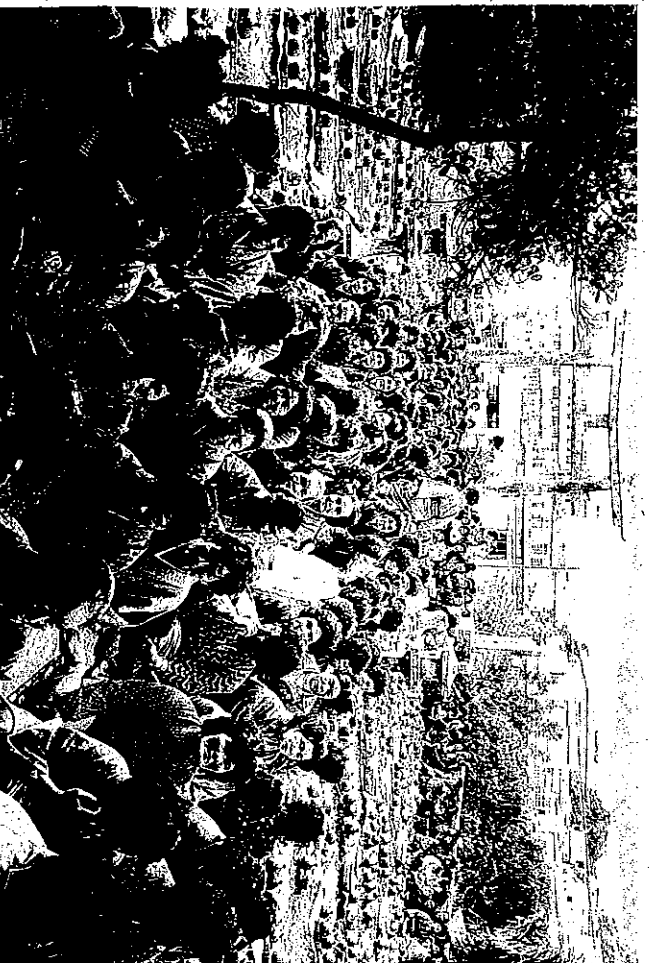
# 限界まで接近 秘儀撮影

## 復帰直後 島々の祭祀記録

古の系譜」とは、沖縄の島々  
 で受け継がれてきた女性たち  
 による祭祀の物語である。  
 許された瞬間  
 上井が狩俣、豊原、大神



おさど・えいじ 1948年那覇  
 生まれ。フィルムター、沖縄大  
 学非常勤講師。著書に『揺れる聖域』  
 『琉球弧の精神世界』(沖縄・共同  
 体の塾)『磨きされるいのち』など。



佐良浜などの祭祀を撮り続け、  
 たのは1972年から83年ま  
 での11年間である。  
 1934年、豊原豊原松吊  
 生まれ。豊原でササの仕  
 事に携わり、カミン・ク  
 が、写真の訴える力を見る者  
 として知られる。10年  
 には写真集「西谷村」で日本  
 写真協会の新人賞を受賞して  
 親子の関係である大神豊、島  
 尻、狩俣豊原で行われる。大  
 の女性たち、宮古島の相神  
 祭」を豊原佐久市で開催し  
 ている(もろさわちよつ)の主  
 宰する「歴史を拓くはじめの  
 家」に)。一ノ上でも知られている。



上井幸子写真集『太古の系譜』

狩俣は、さまざまな角度から  
 の研究がなされている。外間  
 の研究による「狩俣の歌謡」  
 守書にもある「狩俣の歌謡」  
 (真教育委員会所収「沖縄の  
 神歌」宮古語彙)。これは祭  
 祀で祈りとしてつたられる歌  
 を文字化したもので、神々の  
 誕生村の創生に関する物語  
 である。狩俣豊原の立場で神歌  
 を採譜した(「狩俣の神歌」  
 平成3年、鹿屋豊原短期大学南  
 日本文化研究所)。比嘉康雄  
 (2000年逝世)は写真と  
 祭祀の構造を丹念に又主して  
 いる(「遊行する祖霊神ウヤ  
 カク」)。それによるとウヤカ  
 はやっと思われるサリチリ

へは旧暦10月の12月1日か  
 へ5日行われる。  
 写真が撮られたのか、私はその  
 写真に見入った。まだつろ  
 がほとんどで、比嘉康雄の写  
 真より2年は早い時期のも  
 のである。最後の写真は80年  
 に撮られたもので、御嶽の屋  
 根のふき置え時のものであ  
 る。本来御嶽は男子禁制であ  
 るが、祭祀の準備でふき置え  
 るが、祭祀の準備でふき置え  
 作業は男たちの作業である。  
 上井が御嶽に入ることでその  
 感である。  
 比嘉康雄は「限りのなくレロ  
 に近く」と言った。神女たち  
 は「限りのなくレロ」とい  
 う取材者の自戒も込めてい  
 た。

私はある1枚の写真「上井  
 上三ツカク」(79年)を見  
 て仰天した。なんと、真正  
 文も翻せられる。これが秘  
 儀の鉄則である。0(せう)  
 に限りのなくレロが、決して  
 踏み込まない。上井の写真は  
 その姿のきりだと言え。

取材の欲と自戒  
 どの意味も大きい。  
 い女性の一人である。そのこ  
 上井は祭祀を撮った数少ない  
 の瞬間だった。